

## 日本医史学会神奈川地方会一九九三年新年大会

と き 一九九三年一月一六日(土) 午後三時～五時

ところ 横浜市健康福祉総合センター

〈一般講演〉

一、オーレオマイシンが初めて用いられた発疹チフスの流行

佐分利保雄

星野 重二

二、アスクレピオス

日野 英子

三、ペスト残影、その一ウィーンの巻

滝上 正

〈特別講演〉

映像と医学史をめぐる

大村 敏郎

## 神農祭(第40回) 挙行

湯島聖堂(東京都文京区湯島一―四―二五)の神農廟に安置される神農像は、もと雑司谷の幕府北御薬園にあり、のち江戸医学館に祭祀された由緒ある医薬文化財である。昭和二十八年、湯島聖堂神農史蹟礼賛会によって神農祭が復活され、以後毎年十一月二十三日の勤労感謝の日に斯文会と神農奉讃会が神農祭をとり行っている。日本医史学会は平成三年度より

神農奉讃会に加盟した(現在の加盟団体は一〇団体)。

平成四年十一月二十三日に挙行された第40回神農祭は、日本医史学会と医道の日本社が当番幹事となり、午後二時より神農廟にて祭礼、午後三時より斯文会館講堂にて記念講演(林克大東文化大学助教授「五臓の五行配当について」、午後五時より同講堂にて懇親会がもたれた。日本医史学会では神農祭の担当幹事に小曾戸洋を指名し、懇親会では小曾戸が進行役をつとめ、司会は藏方宏昌本学会理事が担当し、盛会裡に終了した。本年度以降も本学会々員の御協力と御参加を期待したい。

(小曾戸 洋)

## 美濃大垣の名医・北尾春圃顕彰碑除幕式

平成四年十月十八日、岐阜県養老郡養老町室原の福源寺において、北尾春圃顕彰碑の除幕式が盛大にとり行われた。

美濃大垣の名医・北尾春圃(一六八五―一七四一)は正徳・享保の二度の朝鮮通信使との交流を通じて、全国的にその名を知られた名医である。現在も『桑韓医談』『提耳談』『当壮庵家方口解』などの著書によって、漢方家は臨床面でも少なからぬ恩恵を受けている。尾張藩医浅井貞庵が『方彙口訣』の中で、「日本の医者では北尾春圃が一番の上手なり。古方家の如く理屈のみ云う者の比ではない。『口解』や『提耳談』を能く読みてみるが好い」と述べているように春圃の医術は極めてすぐれたものであった。